

愛知県ワクチン接種推進本部 第7回会議 議事概要

○日時：2022年4月27日（水）午後1時から午後2時まで

○場所：愛知県本庁舎6階 正庁

○議題

- ① 3回目接種の実施状況等について
- ② 小児接種の実施状況等について
- ③ 新型コロナワクチン副反応等への対応について
 - ・ワクチン接種後の副反応等に対応する医療体制について
 - ・新型コロナワクチン副反応等見舞金について
- ④ その他

1 開会挨拶

（愛知県感染症対策局 竹原技監（本部長））

この会議は、昨年1月29日に第1回会議を開催して以来、計6回の会議を開催し、新型コロナワクチンの接種体制等について議論を進めてきた。

前回、小児接種開始前の昨年12月14日に行った会議では、本部員の皆様に加えて、小児科の専門医である、愛知県小児科医会の津村会長とあいち小児保健医療総合センターの伊藤センター長にオブザーバーとしてご出席いただき、小児へのワクチン接種体制についてご意見をいただいた。市町村の個別接種に加えて、集団接種会場を設置して希望する小児への接種の機会を十分に提供できるようにとのご意見については、県内4か所の大規模集団接種会場に小児用の新型コロナワクチン接種会場を開設した。また、ワクチン接種後に小児に生じた副反応への相談体制の整備が必要であるとのご意見については、副反応を疑う症状を示したお子様が、専門的な医療機関を円滑に受診できるよう、新たにあいち小児保健医療総合センターに、副反応等に対応する相談窓口を設置した。

本日も、愛知県小児科医会の津村会長、あいち小児保健医療総合センター総合診療科の伊藤医長にオブザーバーとしてご出席いただいているので、後ほど小児科医としてのご意見をいただきたい。

本部員の皆様には、本県のワクチン接種が円滑に実施できるよう、それぞれの専門的な立場からご意見をいただきたい。

2 議題① 3回目接種の実施状況等について

【事務局から、資料1から資料6により説明】

(愛知県医師会 浅井副会長)

3回目接種が非常に伸び悩んでいる。一つの原因として、モデルナ社ワクチンの忌避があると思う。医療機関に接種予約の電話がかかってくるけど、モデルナ社ワクチンで接種していることを伝えると電話が切られてしまう状況が続いている。

また、市町村で行っている集団接種会場においても、予約枠の半分も埋まっておらず、その結果、予約枠が減ってってしまう状況である。より一層、県民に向けて啓発活動を進めていってほしい。

(愛知県病院協会 岩瀬常務理事)

1回目と2回目接種の予約はすぐに埋まった。3回目接種では、最初の頃は予約が殺到したが、今は希望が極めて少なく、予約が取りやすい状況である。今の感染者の主流は若い方なので、そういった方にワクチン接種を進めていく必要がある。

また、小児への接種も始まったが、始まる前には接種は大変だろうと感じていたけど、あまりにも予約が少ない状況であり、拍子抜けしたところである。

(事務局)

ご指摘のあったモデルナ社ワクチンの接種を差し控える傾向については、接種後副反応の過度な恐れが県民に浸透していることによるものと考えている。

これは、愛知県に限らず、全国的にも同様な傾向である。資料3でもお示したとおり、これまでモデルナ社ワクチンの供給量は、偏っていたものの、ここ最近における、特に4月の第7クールと第8クールでは、国においてモデルナ社ワクチンの供給を集中的に行っており、モデルナ社とファイザー社ワクチンの供給不均衡は解消されつつある。

しかしながら、交互接種におけるモデルナ社ワクチンの副反応を恐れて、若い方を中心にモデルナ社ワクチンを回避して、ファイザー社ワクチンに集中してしまうことは、大きくは改善されていない。県としても、交互接種の効果や過度な副反応への心配を解消するような情報発信を、引き続き、市町村と一緒に進めていく必要があると考えている。

また、以前に、名古屋医療センターの長谷川先生から、モデルナ社ワクチンの接種は、ファイザー社ワクチンの接種より使用開始が遅く、高齢者は、ファイザー社ワクチンで接種が始まっているが、現役世代の方は、モデルナ社ワクチン

を中心に接種しており、その結果、副反応が比較的起こりやすい若い世代に副反応が集中してしまったとのご指摘をいただいている。また、ファイザー社とモデルナ社のワクチンは、同じ mRNA ワクチンであり、成分と構成が大きく異なるものではなく、モデルナ社ワクチンだから副反応が強くなるのではないことを、県から PR する必要があるともご指摘をいただいている。こうした情報を幅広い世代に周知していき、モデルナ社とファイザー社ワクチンの3回目接種を加速していけるよう努めていきたい。

そして、ご指摘のあった若い方への接種が進まない状況については、県が設置する大規模集団接種会場において、4月9日から予約なし接種を開始しており、30代や40代の現役世代の接種希望者数が大きく増えてきている。1日あたりの接種者数も、予約なし接種を開始する前と比較して伸びてきている。引き続き、若い方が気軽に接種を受けられる機会を提供していきたいと考えているので、医療関係者や市町村関係者には協力をお願いする。

3 議題② 小児接種の実施状況等について

【事務局から、資料7により説明】

(愛知県感染症対策局 竹原技監 (本部長))

小児接種が始まってから二か月ほど経ったが、小児科の専門家として津村先生からご意見をいただきたい。

(愛知県小児科医会 津村会長)

全体の接種率を見ると、予想よりかなり低い傾向である。その要因の一つは、3回目接種の議題でも意見があったが、全体的に接種に対する意識が下がってきている。また、保護者に正しい情報が十分伝わっていない、または情報を伝えるににくい問題がある。

小児科学会としては、基礎疾患のある小児には積極的に接種し、そうではない小児には、本人と相談の上、接種を決めるスタンスである。ただ、小児は注射そのものが嫌いであることが多いので、本人への説明が難しい。加えて、親御さん同士のコミュニケーションの中でワクチンを怖がる親御さんもいるので、より接種への理解を得ることが難しい。今の親御さん達は、新聞を読まない、ニュースを聞かない、情報を SNS のみから入手するといったことや、親御さん同士の会話から情報を増やしている。こうした所に間違った情報が入ってしまうと接種は、中々進んでいかない。そのため、行政機関が SNS から情報を発信していくことがいいのではないかと。

もう一つの問題点としては、ファイザー社の小児用ワクチンは、1バイアルで

10人分の接種量があり、接種開始の頃は、接種希望者が多かったので問題なかったが、2クール目以降になると接種医療機関で接種対象者を10人集めることが大変であり、接種後の余ったワクチンの無駄が気になるとの意見がある。その他に、予約が入っても接種への不安のためかキャンセルとなることが多く、キャンセルは困るとの意見もある。ただ、キャンセルでワクチンが無駄となってしまうことは、ある程度はやむを得ないことと思う。

現在の小児への感染状況を見ると、家庭内における子供から大人への伝播が、オミクロン株の流行から目立ってきている。こうした感染経路に対して、ワクチン接種をどう位置付けしていくのが課題である。接種することの不安と接種しないことの不安のどちらが強いかがである。また、子供が感染の発端者となり、家族にうつしてしまった場合、心に痛みを持ってしまう。大人が考える以上に、子供はセンシティブなところがある。そのため、ワクチンを打っていない状態で感染し、周囲に感染を広げてしまった場合、不安を持たせないような話しかけができればと考えている。

(愛知県感染症対策局 竹原技監 (本部長))

現時点での現場からの意見を聞くことができ参考になった。

続いて、伊藤先生からも意見をお願いしたい。

(あいち小児保健医療総合センター 伊藤医長)

当センターでは、愛知県のコロナ診療における2022年4月1日現在、協力医療機関であり、常時、小児の病床を確保して対応している。おそらく、愛知県で最も多くの小児の入院患者を受け入れている施設であると思われる。

第6波の感染状況についてお伝えすると、第5波と比べて総入院患者数が増えてきている。ただ、第5波のときは、両親が陽性のため子供を看護ができない等の社会的入院が多かったことに対して、第6波では発熱を伴う熱性痙攣等の医療的入院が増えてきている。医療的入院の中でも重症な患者が出現してきており、小児集中治療室にも、連日、入院患者がいる状況が続いている。また、総じて、オミクロン株の患者数も第5波と比べて増えてきている。一方、重症化率は下がってきているものの、総合的に見て、重症化の小児は、現状、増えてきている印象がある。

ワクチン接種については、名古屋空港の大規模集団接種会場を手伝っている。接種に来られる方が、できる限り嫌な思いをせずに接種を受けていただけるよう、様々な工夫を施している。また、2回目接種後の状況について、成人からは、ぐったりしてつらかった等の声があったが、小児においては、こうした声はほとんど聞こえてこなかった。これは2021年12月31日に米国CDCからのデータと

似ていた。そのため、こうした接種後の短期的な副反応の状況を医療関係者から世の中に知っていただく努力を行っていくことが、接種を進めていく上で非常に重要である。

(愛知県感染症対策局 竹原技監 (本部長))

小児接種では、接種後の短期的な副反応の発現は多くないとの話があったが、津村先生のご意見はいかがか。

(愛知県小児科医会 津村会長)

今のところ、接種後の発熱等の話は出てきていない。仮に発熱があっても1日から2日で下がるし、解熱剤の服用で問題ない。ただ、その後の副反応が心配だとの声がある。

(愛知県感染症対策局 竹原技監 (本部長))

市町村の状況を教えていただきたい。

犬山市の接種率や予約状況をお聞かせいただきたい。

(犬山市 高木健康福祉部長)

犬山市の5歳から11歳までの接種率としては、1回目は16.89%、2回目は16.1%である。ただ、他の市町村の接種率と比較したことがないため、この数値が高い値となるかどうかはわからない。

5歳から11歳までは接種の努力義務が課せられていないため、市として、現時点で、積極的に接種してもらうような取り扱いとはしていない。ただ、小児接種が始まったことを知った保護者の方が、すぐに子供に接種できるような状況を作っていこうということで、他の予防接種で通い慣れた保健センターで接種を行ったり、すぐに接種の予約を取れる状況としている。その結果が、接種率に出てきていると思う。

(愛知県感染症対策局 竹原技監 (本部長))

幸田町の状況についてはいかがか。

(幸田町 金澤参事)

4月20日現在の5歳から11歳までの接種率として、1回目は13.6%程度、2回目は7%程度であり、思っていたよりも低い状況であった。

そのため、4月の土日で多く接種していこうと思っていたが、予約状況が少ないため、5月は土曜日だけとし、2回目接種を6月初めに行っていこうと考えて

おり、予約をかなり絞っている状況である。

4 議題③ 新型コロナワクチン副反応等への対応について

【事務局から、資料8から資料9により説明】

(愛知県感染症対策局 竹原技監 (本部長))

名古屋市の接種状況等をお聞かせいただきたい。

(名古屋市健康福祉局 鈴木参事)

名古屋市でも、小児接種については、慎重となる市民の方が多いと思われる状況である。5歳から11歳までの方の接種率として、1回目は3.8%、2回目は5.0%である。名古屋市でも集団接種の機会を先週の土日に設けており、7,840人の予約枠に対して、予約された方は758人の10%程度であった。接種会場に来られた方からは、接種を受けることができ安心したとの声をいただく一方で、5歳から11歳への接種は相当に慎重にならなければならないという声を市民からいただくこともある。私どもにご意見を届けられる方は、いろいろな情報をよく知っており、小児学会等の医学会でも様々な意見があることも承知されている。行政はエビデンスをしっかりと示して安心して接種できる環境を作りたいと思っている。先ほど伊藤先生からもお話のあったとおり、保護者等が接種を受けたいと思うエビデンスを医療従事者から提供いただけたらと思う。行政機関は、医療従事者から示された情報を市民にお伝えすることが役割であるため、医療従事者におかれては、安心できる情報を行政機関にお知らせいただけたらと思う。

副反応等見舞金については、保健センターを介して愛知県へ申請しているところだが、副反応等見舞金は、申請行為が成立した時点で見舞金が発生するため、支給要件である国の予防接種健康被害救済申請が多発する恐れがあるのではないかと、予防接種健康被害調査委員会委員からご意見をいただいている。また、非常に良い制度であるので運用してもらいたい、副反応の治療費と見舞金の関係性を説明してもらいたいとのご意見もいただいている。

(事務局)

小児接種については、努力義務が課せられていないため、県、市町村において接種を促進することの難しさがどうしてもあり、県の方でも工夫しながら接種を進めていく必要があると考えている。

一方で、県における大規模集団接種会場では、小児接種を開始して以降、予約状況は、ほぼ100%である。予約の枠がそこまで大きくないというものもあるが、

先ほどご意見をいただきました、あいち小児保健総合医療センターの伊藤先生のご協力をいただきながら、各会場において、きめ細やかな対応を行いながら、小児の大規模接種を進めている状況である。また、4月末から5月にかけて、県の特別支援学校でも、地域の医療機関では接種が難しい生徒を対象に、希望者を取りまとめて、学校単位で小児接種を進めていく予定としている。

エビデンスや正確な情報を県民にしっかり示して、接種へのご理解をいただいで、ワクチン接種を進めていくことが大切となる。国からの小児接種の情報発信もまだ限られているので、医療機関からの情報も踏まえながら、アンテナを張って、正しい情報をタイムリーに広く発信していけたらと考えている。

また、小児接種が始まった3月と4月は、進級や進学の時期と重なっているため、こうしたタイミングを避けて、接種を見送っている方もいると思う。現状では、なかなか予約が埋まらない状況ではあるが、5月以降にワクチン接種を希望される方が増えてくることも想定されるので、これから先、現在の接種率や接種状況だけではなく、個々の動きも見据えながら、接種体制を市町村と一緒に整えていきたい。

また、小児接種を進めていく上では、親御さん世代への接種を進めていくことが非常に重要となってくる。親御さん達が接種しない場合には、そのお子さんに接種させる動機付けが乏しくなってくるので、親御さん世代への接種を進めていくことで、小児接種の促進に繋げていきたい。

副反応等見舞金については、県独自の制度ということで、市町村には、住民の方への制度の説明等で苦勞をおかけしているが、県としても、制度の概要について、市町村も含めて丁寧にわかりやすく情報提供して、少しでも安心して接種を受けていただけるように取り組んでいきたい。

（瀬戸保健所 澁谷所長）

副反応等見舞金について、これは国の予防接種健康被害救済の認定を問わず、市町村から県に申請書の提出があった方には支給が認められると思うが、こうしたことが県民の方によく伝わっていないと感じる。

予防接種健康被害救済の認定については、国の審議会で検討されているが、アナフィラキシーやアレルギー等のはっきりしたものは比較的早く認定されているが、それ以外の重篤なものについては、症例を蓄積した上でかなり慎重な審議が行われている状況であり、認定には時間を要することが予想される。

したがって、国の認定の結果を待たずして、市町村から県に申請書の提出があった時点で、副反応等見舞金が支給されることを、もう少しPRしていただけたらと思う。

5 議題④ その他

【事務局から、資料 10 から資料 11 により説明】

（愛知県病院協会 岩瀬常務理事）

病院関係者は、感染が始まってから 2 年の間、救急車で搬送される患者さんの受け入れや患者さんのゾーニング、CT 検査後の消毒や換気方法等について、改善を重ねてかなり進歩してきた。

しかし、残念なことに、4 回目接種の対象者に医療従事者が含まれていない。副反応が強く現れた医療従事者は、接種を避けると思うが、約 8 割の方は、接種を希望すると思う。

また、最近では、オミクロン株の流行により、子供からの家族内感染により、30 代から 50 代までの働き世代の医療従事者の感染が各病院及び診療所で深刻となっている。病院協会としては、小児への接種と医療従事者への 4 回目接種をお願いしたいと思う。

（愛知県医薬品卸協同組合 中北理事長）

ワクチンの流通は、滞りなく対応しているが、現在、ジェネリックの調整が大変である。

ワクチン接種については、エッセンシャルワーカーに医薬品卸の関係者を入れてもらえないというのは、懸念事項である。ワクチンを最前線に届けているのに医療従事者にも入れてもらえず、エッセンシャルワーカーにも入れてもらえない。

今後の感染症対策からも、県の方で先駆けて、医薬品卸をエッセンシャルワーカーに入れていただきたい。医薬品卸は、単にワクチンを届けているのではなく、トレーサビリティや高額なディープフリーザーを購入して品質管理も行っているのので、是非こうした点を汲み取っていただきたい。医薬品卸には、現在、管理薬剤師が 85 名いるが、こうした者の中には接種会場でお手伝いをしたいと考えている薬剤師もいるので、こうしたことも汲み取っていただくと、医薬品卸として皆様にもっとお役に立てると思うので検討いただきたい。

（事務局）

医薬品卸へのワクチン接種については、以前の会議でもご意見をいただいております。事務局としては、県の大規模集団接種会場においてエッセンシャルワーカーとして扱って接種させていただいている。1 回目接種からこうしたことを取り組んでいるが、周知が足りない等のご要望があれば、個別に対応するので、事務局までお知らせいただきたい。引き続き、ご協力をお願いする。

6 閉会挨拶

(愛知県感染症対策局 竹原技監 (本部長))

限られた時間ではあったが、これまでの経験に基づく現場でのご意見をいただき御礼申し上げます。予定していた議題は以上となるので、引き続き、円滑なワクチン接種ができるよう取り組んでいくので、協力をお願いします。

以 上